

## 自己の更新

林 涼真

信州大学教育学部に国語教育コースの学生として入学してから、四か月ほど経った。大学に入ってからこれまでの体験はいずれも新鮮なもので、それによって身の回りのことに対する私のものの見方、考え方が変化してきたように感じる。

やはり、最も大きな影響を受けたのは国語教育コースのメンバーで行う「国語教育ゼミナール」であったと思う。この授業では、自分が選んだ本を紹介するというブックトークを行った。一度目のブックトークは、自分が好きな本を持ってきて紹介するという内容だった。紹介したいポイント、自分が面白いと思った部分など、話したいことはあるのに、全く伝わっていないように感じた。このような、伝えることの難しさを感じるとともに、ほかの人の伝え方を見ることが出来る点が、ブックトークの良さであったと感じる。

また、国語教育コースの上級生の方と合同で開催された「新ゼミ日 西長野」でも良い経験ができた。同じコースであるとはいえ普段はなかなかお会いすることができない先輩方や先生方とともに過ごせたことは、良い緊張感を伴う貴重な時間となった。先生方の授業を通して来年度以降の授業の様子を感じたり、先輩方の企画を通して国語教育コースの雰囲気を感じることもできた。

来年度から西長野キャンパスで学ぶ私たちにとって、このように具体的に西長野キャンパスの様子がつかめ、上級生の方々とかかわることが出来る行事を開いていたことは、不安をなくすとともに大学の講義に対する興味を持ち直すきっかけにもなった。さらに、国語を専門とする教授陣の話をお聴きすることで、これから自分たちが専門としていく国語という教科を学ぶ上での意欲を持つことができた。

ここまでで、感じたことや、今までと考えが変わったことがいくつあつた。自分の考えを持ちつつ、それを更新していけるような生活をこれからも送っていきたい。

(はやし りょうま 信州大学教育学部国語教育コース一年)